



平成 29 年 10 月 17 日

校長 落合浩一

【3つの力（表現コミュニケーション力、科学・論理的思考力、社会生活実践力）の育成を目指して～授業研究の公開～】

10月に入り、各高校では授業研究等の発表が次々に行われている。テーマもそれぞれで、今年から始まった県立高校改革の指定校事業の取組発表が中心となっているようだ。

本校では、一昨年に中等教育学校の6年間のまとめとして、県内外に向けて授業を公開し、その成果を「平塚中等教育学校研究第1号」として研究紀要にまとめたところである。昨年度は、こうした取組みをさらに発展・継続するために、「アクティブ・ラーニング・問う力」を視点とした研究授業を行い、研究紀要第2号にまとめた。

現在、「高大接続改革」「大学入試改革」が加速度的に検討されている中、本校で育成する3つの力を視点に、昨年度に引き続き「生徒の主体的で深い学び」いわゆる「アクティブ・ラーニング」をテーマに授業改善に取り組み、10月13日（金）に全授業を公開したところである。当日は、横浜市教育委員会の西村秀之指導主事をお招して1年生英語の模擬授業を実施し、英語への興味関心の持たせ方や4技能の育成等、とても貴重なご指導・ご助言をいただいた。西村指導主事には、大変お忙しい中、快く模擬授業をお引き受けいただき、改めて感謝を申し上げます。

さて、前述した高大接続改革における大学入試改革では、国語・数学・英語で記述式問題の導入、また、英語では、外部検定試験の活用などがあげられており、生徒の思考力・判断力・表現力や英語4技能の育成など、各学校では、今後どのように指導していくのが課題となっている。

平塚中等教育学校では、平成21年4月の創設以来、様々な教育プログラムを展開しながら表現

コミュニケーション力、科学・論理的思考力、社会生活実践力といった3つの力の育成を掲げ教科指導、特別活動、学校行事、部活動等に取り組んできた。まさに、これから始まる高大接続、大学入試改革の趣旨に添った、社会で活躍できる人材を輩出する教育を行っている。しかしながら、創設から10年目を迎え、先生方も入れ替わる中、指導の継続性や教育プログラムの再構築等が課題となっている。「不易と流行」「温故知新」などの格言もあるが、生徒が自分の夢に向かって自己実現を叶えるために、「何が必要か!」といった視点を持って課題に取り組んでいきたい。

【Now or Never ～今しかできないことがある～ 翠星祭文化部門テーマ決定】

今年の翠星祭のテーマは、Now or Never ～今しかできないことがある～に決まった。

「Now 今」を仲間と共に生きる、慈しむ、学ぶ、その先にある未来に向かって今できることに真剣に一生懸命に取り組む、と私は解釈している。生憎の秋の長雨で、準備も滞りがちで大変ではあると思うが、平塚中等らしい学習成果発表や食品販売・教室催事、そして部活動による発表など、様々な成果発表を楽しみにしている。

